

ウェディング市場からみた20～30代女性の 価値観とは!?～縮小市場からの逆転発想

開催概要

海外旅行の最新動向と旅行市場の課題解決に向けた情報提供の場として、毎年夏に開催。08年度は、第1部で最新の海外旅行市場動向の分析結果を報告。第2部ではウェディング市場で目覚ましい成長を見せるワタベウェディング(株)の渡部隆夫会長をゲストに迎え、時代の読み方やマーケットへの対応、経営の秘訣、着眼点などを聞きながら、縮小市場における生き残り戦略へのヒントと、20～30代女性の価値観に迫るディスカッションを展開した。

■ 日 時 08年7月23日(水) 13:30～17:10

■ 担当者 小林英俊・黒須宏志・久保田美穂子・

■ 場 所 経団連会館 11F 国際会議場(東京・大手町)

雨宮三津子

プログラム

◆第1部

「低迷続くマーケット／背後に構造的要因か? ～海外旅行市場最新動向(2007～2009)」

(財)日本交通公社 主任研究員 黒須宏志

海外旅行マーケットは2007年後半から急速に悪化しつつある。成熟化の代償として成長力を失った市場は、燃油高、中国方面の災害・事件、円安(USドルを除く主要通貨に対し)など、幾重にも重なったマイナス要因の底であえいでいる。力を残しているセグメント・方面はどこなのか、「2010年」までの間、市場はどう推移するのか、最新のデータをもとに解説した。

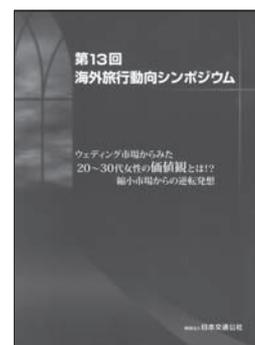
◆第2部

「ウェディング市場からみた20～30代女性の価値観とは!? ～縮小市場からの逆転発想」

ゲスト講師：ワタベウェディング(株) 会長 渡部隆夫氏

コーディネーター：(財)日本交通公社 常務理事 小林英俊、主任研究員 久保田美穂子

ワタベウェディング(株)は、結婚式の貸衣裳業を原点として、73年、ホノルルの第1号店を皮切りにハワイ挙式・海外ウェディング事業に取り組み、以来順調に業績を伸ばしてきた。ホノルル出店の背景は、たった2組の、ハワイでのレンタル衣裳に関する要望。沖縄リゾートウエディングなど国内挙式市場への仕掛けも絶やさず、最近では「京都和婚」という新しいスタイルが人気を集めている。さらに、グローバル時代に先駆けて97年には上海店をオープンし中国の富裕層向けに“日本式婚礼”を展開。ダイナミックな事業展開を支えるワタベ流マーケティングの秘訣はどこにあるのか、観光産業界へのヒントを学んだ。



08年10月、第2部の内容を採録した冊子を発行。

参加者数 171人

“脳”から考える“楽しい”の本質がカギだ！

特別講義：茂木健一郎先生が語る「旅のクオリア」

開催概要

09年度は、全体テーマを「“脳”から考える“楽しい”の本質がカギだ！」と題し、「人間は何を楽しいと感じるのか」という原点から旅行・観光を捉え直すことを訴えた。

第1部では最新の海外旅行市場動向の分析結果を報告。第2部は、脳科学者の茂木健一郎氏の特別講義。続く第3部で、小学校の授業や大人の生涯学習の実践現場から講師を招いて議論した。

■ 日 時 09年7月21日(火) 13:00～17:20

■ 担当者 小林英俊・久保田美穂子・黒須宏志・

■ 場 所 経団連会館 2F 国際会議場(東京・大手町)

岡田美奈子

プログラム

◆第1部

「世界経済危機は日本の海旅市場をどう変える？～海外旅行市場最新動向(2008～2010)」

(財)日本交通公社 主任研究員 黒須宏志

海外旅行はこれまでにない困難な状況に直面している。9.11、SARSなど過去のクライシスはマーケットにとってターニングポイントとなった。この嵐が過ぎた時、市場は一体どんな姿で戻ってくるのか……。過去10年以上にわたる長期的トレンドの分析と最新の市場調査結果をもとに解説。

◆第2部

特別講義「旅のクオリア・観光地のクオリア」

特別講師：茂木健一郎氏（脳科学者）

聞き手：(財)日本交通公社 常務理事 小林英俊

近年、感情の動きや無意識下の思考のクセを知らなければ、本当の人間行動は分からないという考え方が広まり、脳科学への関心が高まっている。旅行・観光分野においても量的・質的分析だけでなく、人々が無意識に判断している領域に踏み込み、原点に立ち返ることが求められている。そこで、茂木氏が提唱しているクオリア(質感)について学び、これからの旅をもっと面白くするヒントをいただいた。

◆第3部

「学びがエンターテイメントに！～楽しく刺激する潜在欲求」

ゲスト講師：NPO法人グローバルキャンパス 理事長 大社充氏、玉川大学教職大学院教育学研究科 准教授 谷和樹氏

コーディネーター：(財)日本交通公社 常務理事 小林英俊、主任研究員 久保田美穂子

子供の心をぐっとつかむ観光立国教育を実践する谷氏、大人の学びを、各人の生きように応じた達成感や自己肯定感、深い感動を共有する喜びの中に創出してきた大社氏。楽しい学びを促すエンターテイメントのプロであるお二方から、人間のさまざまな欲求と、それらを楽しく満たしてきた実例を交えて観光・旅行へのヒントを伺い、議論を展開した。

09年10月、第2部・第3部の内容採録と、企画過程での研究成果を取りまとめた冊子を発行(90ページ参照)。



料理人の世界観が人を呼ぶ時代 ~オーベルジュが観光を変える!?

同時発表：2009 年の旅行動向見通し

開催概要

旅行市場の動向分析と翌年見通しの発表および課題解決に向けた情報提供の場として、毎年 12 月に開催。08 年度は、当財団観光文化事業部観光経済分析チームの調査をもとに「2009 年の旅行動向見通し」を発表。第 2 部では、おいしい料理を求めて遠出する旅行に着目。「料理人の世界観が人を呼ぶ時代 ~オーベルジュが観光を変える!？」と題し、北海道を代表するフレンチシェフの中道博氏をゲストに招き、食をキーワードにした新しい旅行スタイルと地域の可能性や観光産業の関わり方などについて議論を展開した。

■ 日 時 08 年 12 月 17 日(水) 13:30 ~ 17:20
■ 場 所 経団連会館 11F 国際会議場(東京・大手町)

■ 担当者 小林英俊・黒須宏志・久保田美穂子・
雨宮三津子ほか

プログラム

◆第 1 部

「2009 年の旅行動向見通し」

(財)日本交通公社 観光経済分析チーム

(主任研究員 黒須宏志、主任研究員 塩谷英生)

米国に端を発した金融危機が国内の消費に及ぼす影響が懸念される 2008 年末。08 年の旅行・観光マーケットの動向および 2009 年の市場動向の予想について、最新の調査結果を踏まえ報告した。円高刺激、低価格商品と海外旅行需要に関する調査や JTBF オピニオンリーダー調査など独自の調査結果などから予測を発表。

◆第 2 部

「料理人の世界観が人を呼ぶ時代 ~オーベルジュが観光を変える!？」

ゲスト講師：レストラン「モリエール」/オーベルジュ「マッカリーナ」オーナーシェフ 中道博氏

コーディネーター：(財)日本交通公社 常務理事 小林英俊、主任研究員 久保田美穂子

地域の食材利用はもちろん、その地域の景色や文化と“一体化”した料理を求めてわざわざ出かける人が増えている。彼らは料理に表現された料理人の個性的な世界観やメッセージを受信、体感しているのではないか。地方の観光を変える大きな可能性を持つとして注目される「食」であるが、そこには「創造性」というキーワードが不可欠だ。

中道氏は地域とともに新しい価値を創り出し、その活動の幅をどんどん広げている。シェフが地域と観光客を結びつける重要な役割を果たしているのだ。

中道氏が JA と共に取り組んだ「美瑛選果」での挑戦などをうかがいながら、最後には、料理人の確たる料理観のように、観光観・旅行観を持つことを提言した。

今なぜ京都だけが一人勝ち!? ~集まる秘密(わけ)を解く

市場分析：旅行マーケット最新動向

開催概要

旅行市場の動向分析と翌年見通しの発表および課題解決に向けた情報提供の場として、毎年 12 月に開催。09 年度は、第 1 部で 2010 年の旅行市場の展望について発表。第 2 部では、好調続く京都人気に着目し、その背景と仕掛けをさまざまに探った。全国的に旅行市場は伸び悩んでいるが、京都への観光客数は 13 年連続で増加、8 年連続で過去最高を更新している。なぜ京都だけが毎年伸び続けているのか。そこから他の観光地・観光産業の活性化に役立つ普遍的要因の発見を試みた。

■ 日 時 09 年 12 月 16 日(木) 13:30 ~ 17:20
■ 場 所 経団連会館 2F 経団連ホール(東京・大手町)

■ 担当者 小林英俊・久保田美穂子・黒須宏志・
岡田美奈子ほか

プログラム

◆第 1 部

「旅行マーケットの最新動向と 2010 年の展望」

(財)日本交通公社 主任研究員 黒須宏志

世界経済危機、新型インフル、雇用状況の悪化など、依然として厳しい外部環境が続く一方で、円高や成田・羽田の供給量増加、さらには高速道路の割引制度など、マーケットを刺激する要素もある 2010 年。最新の調査結果を踏まえ、2009 年の旅行・観光マーケットの動向および 2010 年の市場動向の予想について報告した。

◆第 2 部

「今なぜ京都だけが一人勝ち!? ~集まる秘密(わけ)を解く」

ゲスト講師：(株)時有人社 代表取締役教授／メルパルク(株)取締役 清水宏一氏

(株)ジャパンライフデザインシステムズ 代表取締役社長 谷口正和氏

コーディネーター：(財)日本交通公社 常務理事 小林英俊、主任研究員 久保田美穂子

京都人気の理由について仮説を立て、ゲスト講師のお話を交えて議論を展開。清水氏からは主に、京都市の観光戦略はどのようにして生まれ、実践されたのかを伺い、谷口氏からは、日本回帰志向など大きな社会トレンドと旅行者マインドを絡めて解説いただいた。

京都には、ハードリピーターの細分化した興味に応えるバリエーションの豊富さ・奥深さがある。京都の暮らし方・生き方への憧れや共感が高まるような時代背景もある。マーケティングに基づく積極的なイベント施策や景観整備政策も功を奏していた。

また、意欲的な若手事業者たちが、町家再生店舗でクリエイティビティを発揮し、街全体が新しい魅力を備えて生き生きとしていることも重要な要因だろう。これからの観光のあり方を意識してヒントを探った。

観光地域づくりの考え方とその実践に向けて

開催概要

自治体の新任担当者を想定対象者とし、観光担当者として必要な知識とノウハウを総合的に習得してもらう講座として毎年6月に実施。現場をリードしてきた実践者による基調講演のほか、当財団の研究員が、日頃の活動を通じて得た最新情報と知見を交えて講師を務める。

- 日 時 08年6月19日(木)～20日(金) ■ 担当者 小林英俊・久保田美穂子・雨宮三津子
■ 場 所 第一鉄鋼ビル B1 A 会議室

プログラム

6月19日(木)

- 講義 1 成熟化時代の観光マーケティング
講師：(財)日本交通公社 常務理事 小林英俊
- 講義 2 旅行者マーケットの最新動向
講師：(財)日本交通公社 研究員 相澤美穂子
- 講義 3 地域が取り組む観光客への情報提供
講師：(財)日本交通公社 主任研究員 中野文彦
- 講義 4 地域を元気にする考え方～教育旅行が地域を変える
講師：東北観光推進機構 教育旅行アドバイザー 小椋唯一氏

意見交換会

6月20日(金)

- 講義 5 産業観光を通じた観光地づくり推進
講師：(財)日本交通公社 主任研究員 牧野博明
- 講義 6 観光の経済効果と観光統計の活用・整備
講師：(財)日本交通公社 主任研究員 塩谷英生
- 講義 7 先進地調査からみる観光地域づくり
講師：千葉県商工労働部観光課 荒井一氏
(財)日本交通公社 研究員 菅野正洋
- 講義 8 ニューツーリズムを担う人材に求められる能力
講師：(財)日本交通公社 主任研究員 山田雄一

地域が元気になる観光地づくり

開催概要

自治体の新任担当者を想定対象者とし、観光担当者として必要な知識とノウハウを総合的に習得してもらう講座として毎年6月に実施。現場をリードしてきた実践者による基調講演のほか、当財団の研究員が、日頃の活動を通じて得た最新情報と知見を交えて講師を務める。

■ 日 時 09年6月18日(木)～19日(金)

■ 担当者 小林英俊・久保田美穂子・岡田美奈子

■ 場 所 東京文化会館 4F 中会議室 1

プログラム

6月18日(木)

講義 1 観光の意味と可能性
講師：(財)日本交通公社 常務理事 小林英俊

講義 2 旅行者マーケットの最新動向
講師：(財)日本交通公社 主任研究員 久保田美穂子

講義 3 着地型観光の確立をめざして～平戸の試み
講師：(社)平戸観光協会 会長 籠手田恵夫氏

意見交換会

6月19日(金)

講義 4 地域が元気になるヒント～がんばる地域の最新情報
講師：(財)日本交通公社 主任研究員 中野文彦

講義 5 観光経済の視点からみた地域の姿
講師：(財)日本交通公社 主任研究員 塩谷英生

講義 6 地域発ニューツーリズムの造り方・売り方
講師：(財)日本交通公社 主任研究員 大隈一志
(財)日本交通公社 主任研究員 鈴木晴江

講義 7 観光圏の考え方と地域における活用について
講師：(財)日本交通公社 主任研究員 吉澤清良

地域主体の観光

～新しい時代の価値観を地域から発信する～

開催概要

自治体の観光担当者として必要な知識・ノウハウを総合的に習得してもらう講座「観光基礎講座」に対して、さらに深く実践的な知識を身に付け、明確な地域の将来ビジョンを持ち、地域振興や観光振興を進める人材を育成する講座として 03 年度から実施。

特に各地域で活躍する講師から、現場の事例を元にした具体的な進め方とともに、根底にある考え方を学ぶ。

■ 日 時 08 年 11 月 27 日(木) ～ 28 日(金)

■ 担当者 小林英俊・久保田美穂子・雨宮三津子

■ 場 所 第一鉄鋼ビル B1 D 会議室

プログラム

11 月 27 日(木)

- 講義 1 地域主体の観光の時代
講師：(財)日本交通公社 常務理事 小林英俊
- 講義 2 「浜名湖えんため」～新しい連携が地域を動かしブランドに
講師：浜名湖えんため代表/ホテル鞠水亭 専務取締役 稲葉大輔氏
- 講義 3 逆転発想の地域づくり～小さな町の生き方が新しい日本をつくる
講師：上越市議会議員/前安塚町長/観光カリスマ 矢野学氏

意見交換会

11 月 28 日(金)

- 講義 4 地域を再生する力とは～元気な温泉地の共通項に学ぶ
講師：(財)日本交通公社 主任研究員 久保田美穂子
- 講義 5 豊かさとは何か～地域の人たちと一緒に考えた実践的提言
講師：元・紀南振興プロデューサー/(有)伊勢福 代表取締役社長 橋川史宏氏
- 講義 6 漁村を変えた番屋エコツーリズム～支援事業を活かした成功例
講師：田野畑村役場 政策推進課 渡辺謙克氏

地域主体の観光

～身近な里海・里山で生きる～

開催概要

自治体の観光担当者として必要な知識・ノウハウを総合的に習得してもらう講座「観光基礎講座」に対して、さらに深く実践的な知識を身に付け、明確な地域の将来ビジョンを持ち、地域振興や観光振興を進める人材を育成する講座として 03 年度から実施。

特に各地域で活躍する講師から、現場の事例を元にした具体的な進め方とともに、根底にある考え方を学ぶ。

■ 日 時 09 年 11 月 26 日(木) ～ 27 日(金)

■ 担当者 小林英俊・久保田美穂子・岡田美奈子

■ 場 所 東京文化会館 4F 中会議室 2

プログラム

11 月 26 日(木)

- 講義 1 地域主体の観光の時代
講師：(財)日本交通公社 常務理事 小林英俊
- 講義 2 自立してこそ地域貢献 ～規格外の「びわ」で集客、システムで活性化
講師：南房総市商工観光部観光プロモーション課 副主幹
(株)とみうら 枇杷倶楽部 取締役 福原正和氏
- 講義 3 島からのおくりもので「感幸」をめざす ～心の中にお土産を
講師：海島遊民くらぶ代表／旅館「海月」女将 江崎貴久氏

意見交換会

11 月 27 日(金)

- 講義 4 観光庁発足で加速する観光政策と現場の今
講師：(財)日本交通公社 研究調査部長 梅川智也
- 講義 5 里山と森林が人々を癒し、元気にする ～グリーンツーリズム先進地から
講師：飯山市税務課 収税係長／前観光課 旅産業係長 出澤俊明氏
- 講義 6 ゆるやかでフラットな“地域企業”で身近な資源を事業化
～2 年半で地域はここまで変わる
講師：稲取温泉観光協会 事務局長 渡邊法子氏

● 第7回観光文化セミナー

ラグジュアリートラベルとは何か

開催概要

講師の福永氏は、ル・メリディアン・シンガポール、英国メジャーホテルチェーンのフォルテ・メリディアンホテルズに勤務されホテルサービスの基本を学び、ブランドマーケティングを担当。この間、熱海の日本旅館において欧米系のホテルの総支配人を集めて営業会議を開催した経験が今日の起業へとつながった。ホテルの最高のサービスを提供し経験している方たちが、日本旅館の“おもてなし”に満足し感動されたことに触れた瞬間、福永氏は日本が誇る旅館文化を世界に広げることを決意。2004年に14軒の代表的な日本旅館とともに「ラグジュアリー・リヨカン・コレクション」を立ち上げた。2007年12月にはフランスのカヌで開催されたインターナショナル・ラグジュアリー・トラベル・マーケット「ILTM2007」に経済産業省「ILTM ジャパンナイト実行・出展委員会」事務局長として参加し成功を取めた。福永氏は、富裕層とは「本物を求めている人たち」と強調され、海外富裕層を日本に迎えるとは、取りも直さず、“おもてなし”や、繊細で精神性の高い日本の文化、“和”を伝える本物のコンテンツを磨き、ジャパンブランドを構築し発信すること、と訴えた。



参加者数 43人

- 日 時 2008年4月24日(木) 16:30～18:00
- 場 所 第一鉄鋼ビル B1D会議室
- 講 師 (株)アール・プロジェクト・インコーポレイテッド代表取締役/
ザ・リヨカン・コレクション 代表 福永浩貴氏
- 担 当 者 外川宇八・渡邊サト江

● 第8回観光文化セミナー

「観光」の系譜

開催概要

講師の沢木氏が当財団の機関誌『観光文化』140号から156号まで17回にわたって寄稿された連載「『観光丸』蒸気船から宇宙船へ」を踏まえ、「観光」誕生から「観光庁」設立に至る152年の歴史を系統立てて解説した。「観光」は1855年(安政2年)にオランダから幕府に献上された蒸気船スピン号に、当時「長崎海軍伝習所長」の職にあった永井尚志が命名した船名であった。岩倉使節団の「米欧回覧実記」扉の揮毫「観光」に代表される文明開化、海外賓客インバウンド、国威発揚、洋行、報国宣伝を意味した戦前までの歴史と、戦後復興としての観光から「観光」の多用・乱用時代を経て1963年(昭和38年)「観光基本法」が成立して2007年(平成19年)に新たに「観光立国推進法」が成立するまでの流れが、珍しい映像とともに説明された。「観光」は近代日本の歩みとともにその意味を変えて役目を果たしてきた。今まさに21世紀日本の新たな旗振りとして大なる期待が寄せられており、沢木氏は、今後の「観光」は「文明」から「文化」志向へ移っていくだろうと、「文化」の重要性を主張された。



参加者数 27人

- 日 時 2008年10月23日(木) 16:30～18:00
- 場 所 第一鉄鋼ビル B1D会議室
- 講 師 旅行ジャーナリスト 沢木泰昭氏
- 担 当 者 外川宇八・渡邊サト江

● 第9回観光文化セミナー

国土観光のすすめ

開催概要

講師の家田氏は、人と自然との多面的な関わりについて和辻哲郎の『風土』などを引き合いに洋の東西にわたり多数の事例を紹介。アメリカの国道66号線がスタインベックの長編小説『怒りの葡萄』の舞台になったこと、また、古い歴史を有する庄内平野の砂防林が安部公房の小説『砂の女』の源になったことなど、国土と文学の関連にも話を展開した。人は、それぞれの生活する場所の自然と密接な関わり方をしており、人が自然と関わる、つまり土木によって国土を保全し、国土をより良いもの、人間と自然が共生できる関係にしてきた。観光とは、「国の光を観る」という意味だが、「光」すなわちいいところばかりでなく、人の愚かさや失敗、葛藤、挫折、超克などの努力の跡も学んでほしいと主張。こうした、国土と人の営みを知る旅が「国土観光」と提唱された。国土観光の二次的効果として旅の持つ教育・啓発効果の重要性と、国土の国民的管理（国民参加の国土管理）の勧め、そして国民が国土のことを理解するためにも、観光庁は国土交通省にあるのだから、「観光業行政」から「観光行政」へと目を向けてほしいという観光庁へのメッセージで締めくくった。



- 日 時 2009年4月21日(火) 16:30～17:45
- 場 所 第一鉄鋼ビル B1D会議室
- 講 師 東京大学大学院 教授 家田仁氏
- 担 当 者 外川宇八・渡邊サト江・朝倉はるみ

参加者数 37人

● 第10回観光文化セミナー

ジオパークとジオツーリズム

——地球に親しむ観光とは——

開催概要

ジオパーク、ジオツアーはユネスコの地球科学部門による造語であり、ジオパーク制度は2004年に始まった。世界ジオパークは、ユネスコの支援を受けて同年に設立された世界ジオパークネットワーク(GGN)に加盟して登録される。世界遺産はユネスコ総会で採択された世界遺産条約に従って国がユネスコに申請するが、ジオパークはそれぞれの地元が各国のジオパーク委員会の審査・推薦を経てGGNに申請する。日本におけるジオパークの取り組みは、2004年NPO法人地質情報整備・活用機構(GUPI)が設立され、2007年日本ジオパーク連絡協議会準備会発足、2008年同協議会発足、2009年8月には洞爺湖・有珠山(北海道)、糸魚川(新潟県)、島原半島(長崎県)の3地域が日本から初の世界ジオパークとして認定された。硬い自然(大地)に触れる・知ることで、災害に対して意識を深め自分で考えるきっかけにすべくジオツアーを活用する、地球に生きていることを楽しむ、といった点が講師から提案された。



- 日 時 2009年10月27日(火) 16:30～17:45
- 場 所 第一鉄鋼ビル B1D会議室
- 講 師 NPO法人地質情報整備・活用機構 矢島道子氏
- 担 当 者 外川宇八・渡邊サト江・朝倉はるみ

参加者数 31人

● 第4回旅の図書館講座

まち歩きを楽しむ

開催概要

講師は絵地図師・散歩屋の高橋美江氏。まち歩きを学ぶにあたり、心構えとして“まちを面白がる”気持ちが大事、ハレ(祭り)も楽しいが、ケ(日常)の中にそのまちの素顔を発見できると講義。持参された「だまし絵」を見せ、東京の下町を主とする多数の撮影写真を解説しながら、まち歩きを楽しむ方を具体的にユーモアたっぷりに説明された。鳥の目線ではなく虫の目線で見つめると思わぬ発見があること、地元の人には気にもされないことに気がついて感動が生まれ、そこから地元の方とのコミュニケーションが始まる。国内・海外各地の珍しい地図、ナイル川やライン川、荒川の河川図、都市地図、南北が逆転した地図なども披露し解説された。そして、地図は正確だからといって見る人に伝わるものではない、と講師は主張。まち歩きにはイラスト入りの地図の方が地域との距離を縮めると、絵地図師としての心意気を語って講演を終えた。



- 日 時 2008年1月26日(月) 14:00～15:30
- 場 所 旅の図書館内
- 講 師 絵地図師・散歩屋 高橋美江氏
- 担 当 者 外川宇八・渡邊サト江

参加者数 35人

● 第5回旅の図書館講座

落語で楽しむ旅の味わい

開催概要

講師は、落語家の柳家小蝸氏と桂宮治氏。趣向を変えて特設の落語寄席とし、桂宮治さんの前座の後、二つ目柳家小蝸さんには「旅のお話」、「ねずみ」の二つの演題を語っていただき、話芸を堪能した。今回は旅と落語のコラボを目指し、その心は“人情にふれる”にあった。「ねずみ」は名工左甚五郎が主人公だが、旅先の仙台の小さな旅籠のあるじから苦勞話を聞かされて、何とか宿の営業の助けになればと無償で彫り上げた「ねずみ」が客寄せとなり見事に復活する話であった。



- 日 時 2008年7月5日(土) 14:00～15:30
- 場 所 旅の図書館内
- 講 師 落語家 柳家小蝸氏・桂宮治氏
- 担 当 者 外川宇八・渡邊サト江

参加者数 46人

● 第6回旅の図書館講座

鉄道の旅…その魅力とわざ

開催概要

講師は、作家の野村正樹氏。銚子電鉄、軽井沢駅、安来駅の画像からクイズが出題され、正解者4人に銚子電鉄名物「ぬれせんべい」が渡されて会場は大いに盛り上がった。国内の鉄道旅行の楽しみとして、「一人旅、単線、ローカル線、ワンマンカー、一見の価値のある場所、一度は途中下車、一筆書きの切符」をキーワードに、山陰本線での体験談や中央線(旧甲武鉄道)の歴史物語などを話された。海外の鉄道夫婦ふたり旅の楽しみは「豪華列車、トラム・地下鉄、そして時としてフリータイムの単独行動」が旅の極意とのこと。「鉄道の旅」は「人生の旅」であり、終着駅は始発駅とイコールである、定年は新たなる自由と飛躍のスタート台である、と締めくくった。なお今回の講座では(社)日本民営鉄道協会のご協力により、多数の民鉄会社の資料を提供いただいた。



- 日 時 2009年1月24日(土) 14:00～15:30
- 場 所 旅の図書館内
- 講 師 作家 野村正樹氏
- 担 当 者 外川宇八・渡邊サト江

参加者数 39人

● 第7回旅の図書館講座

暮らしに息づく京都 1200年の文化資産

開催概要

講師の土居氏が「京すずめ学校」を始めたきっかけは、日本の文化、京都の文化を次世代に伝えたい、そのために頭でなく体で学ぶことが必要ではないか、という思い。そこで、京都という現場で、職人さんをはじめ最高の先生に、彼らが命がけで守ってきた文化を伝えてもらうスタイルをとっている。「京すずめ学校」は京文化の幅広さ・奥深さを反映し、年数回、食文化、近代庭園、染め物、香道等、多種多様なテーマで講座を開催。「一見さんお断り」なのは、お客様のことを理解していないと良いおもてなしができない、という京都の「哲学」のひとつと説明された。京都には本物がたくさんあり、先人の歴史的・文化的蓄積があるからこそ長く首都であり、今日に至る。王朝のみならず庶民生活を支えた職人の技が人から人へと踏襲されている。また、京都は歴史・政治の表舞台にいたが、例えば応仁の乱を横目で見ながら町衆はたくましく普通の暮らしを続けてきた。こうした心の力、心の産業こそが京都の強みではないか、と締めくくった。



- 日 時 2009年7月11日(土) 14:00～15:30
- 場 所 旅の図書館内
- 講 師 NPO 法人遊悠舎京すずめ 理事長 土居好江氏
- 担 当 者 外川宇八・渡邊サト江・朝倉はるみ

参加者数 38人

2007年度日韓共同観光シンポジウム

開催概要

2005年12月、(財)日本交通公社は韓国文化観光研究院との間で「観光研究合意書」(MOU=Memorandum of understanding)を締結し、「情報協力」「協力研究」および「共同研究」に取り組んでいる。2007年度は、沖縄と済州島を対象地域とした共同研究(「沖縄・済州島の観光実態と今後の観光政策のあり方」)を実施。本シンポジウムは、同研究の成果報告と、また今後の沖縄・済州島の観光政策のあり方を、両地域の行政や観光関連団体、観光事業者、学識経験者の方々とともに考える場として開催した。

- | | | | |
|-----|--------------------------|------|--------------------------|
| ■日時 | 07年12月11日(火) 14:00～17:30 | ■後援 | 沖縄県、(財)沖縄観光コンベンションビューロー |
| ■場所 | 沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハ | ■担当者 | 岩佐吉郎・吉澤清良・岩崎比奈子・清水雄一・孫鏞勲 |
| ■主催 | (財)日本交通公社・韓国文化観光研究院 | | |

プログラム

- | | |
|-------|--|
| 14:00 | 開会 |
| 14:20 | 1. 沖縄・済州島の紹介 |
| 14:40 | 2. 研究成果報告
「沖縄・済州島の観光実態と今後の観光政策のあり方」
(財)日本交通公社 主任研究員 吉澤清良 |
| 15:10 | 3. 特別報告
「韓国におけるカジノの現状と課題」
韓国文化観光研究院 研究委員 Ryu, Kwang Hoon氏 |
| 15:50 | 4. パネルディスカッション
「今後の沖縄・済州島の観光政策のあり方」

パネリスト：名桜大学国際学部観光産業学科 教授 小濱哲氏
沖縄観光の未来を考える会 副会長 白石武博氏
Tamra 大学 教授 Kim, eui keun氏
済州日報 政治部長 Kang, Yeong Jin氏
コーディネーター：(財)日本交通公社 研究主幹 岩佐吉郎 |
| 17:20 | 閉会 |

2008年度日韓観光交流活性化に関する 国際シンポジウム

開催概要

(財)日本交通公社は韓国文化観光研究院と共同研究に取り組んでいる。08年度のテーマである「日韓両国のアウトバウンド旅行市場と両国観光交流人口の将来展望に関する研究」について、韓国ソウルでシンポジウムを開催。両国の研究者の知見を合わせて今後の観光交流マーケットを展望する研究成果を発表した。同日、第2期の「観光研究合意書」を締結。

■日時 08年12月1日(月) 14:00～18:00

■主催 (財)日本交通公社・韓国文化観光研究院

■場所 韓国観光公社本社

■担当者 黒須宏志・孫鏞勲

プログラム

14:00 開会

14:40 3年間の活動報告
韓国文化観光研究院 研究委員 Kangwook Lee氏

15:00 第1テーマ「訪日韓国人・訪韓日本人の旅行実態」
(財)日本交通公社 研究員 孫鏞勲
韓国文化観光研究院 研究員 Sung Tae Lee氏

15:50 第2テーマ「日韓観光交流マーケットの主な影響要因」
・日本の海外旅行市場において主な影響要因
・日韓両国における国際観光需要に関する経済変数の影響分析
(財)日本交通公社 主任研究員 黒須宏志
韓国文化観光研究院 研究委員 Kangwook Lee氏

16:40 質疑応答

17:10 パネルディスカッション

18:00 閉会

参加者数約30人

萩・遺産観光と世界遺産 まちづくりシンポジウム

開催概要

(財)日本交通公社は、プロジェクトメンバーとして参画している国立民族学博物館の「遺産の所有と利用に関する観光文明学的研究会」(代表幹事：九州大学大学院芸術工学研究院 教授 西山徳明氏)が開催するシンポジウムを支援している。07年度は、山口県萩市にて「文化遺産を生かしたまちづくりと近世城下町としての世界遺産登録への課題」をテーマとして開催した。

エコミュージアムを基本理念とするまちづくりに博物館や文化財保護の立場から取り組む萩市と太宰府市の事例発表、世界の都市史における日本の近世城下町の普遍的価値を問い直し、世界遺産を目指す彦根市と金沢市からの先進事例発表、萩市も含めた登録申請へ向けた戦略や課題について議論。

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|---|
| ■ 日 時 | 2008年2月16日(土)～17日(日) | ■ 主 催 | 国立民族学博物館「遺産の所有と利用に関する観光文明学的研究会」・(財)日本交通公社 |
| ■ 場 所 | 山口県萩市 萩博物館大講義室 | | |
| ■ 担当者 | 小林英俊・相澤美穂子・久保田美穂子 | | |

プログラム

2月16日(土)

- 8:30 萩博物館および「萩まちじゅう博物館」の視察
- 13:00 開会
- 13:20 1日目趣旨説明
阪南大学 吉兼秀夫氏
- 13:30 研究発表1「萩の無形遺産と萩まちじゅう博物館の取り組み」
発表者 萩博物館 清水満幸氏
- 15:30 研究発表2「文化財と文化遺産～太宰府市民遺産の取り組み」
発表者 太宰府市教育委員会文化財課 城戸康利氏
- 17:15 1日目全体討議

2月17日(日)

- 9:00 2日目趣旨説明
九州大学 西山徳明氏
- 9:15 研究発表3「世界遺産として考える近世城下町の普遍的価値」
発表者 九州大学 宮本雅明氏
- 10:45 研究発表4「萩ー日本の近世社会を切り開いた城下町の顕著な都市遺産 - 世界遺産登録への取り組みと課題 (住み続けるためのまちづくりとして)」
発表者 萩市建設部まちなみ対策課 大槻洋二氏
- 13:00 研究発表5「彦根市における世界遺産登録への取り組みと課題」
発表者 滋賀大学 山崎一眞氏
- 14:15 研究発表6「金沢市における世界遺産登録への取り組みと課題」
発表者 金沢大学 小林史彦氏
- 15:15 2日目全体討議
コメンテーター 国立民族学博物館 関雄二氏
(財)日本交通公社 小林英俊
阪南大学 吉兼秀夫氏



参加者数(研究者、萩市民、学生など) 53人

旅の図書館開設 30 周年記念講演会 —“テーマのある旅”を楽しむ—

開催概要

「旅の図書館」は、(財)日本交通公社が公益事業の一環として観光文化の振興を願い 78年に開設した専門図書館である。08年 10月に開館 30周年を迎え、記念講演会を開催した。

- 日 時 2008年 10月 4日(土) 14:00～17:00 ■ 担当者 渡邊サト江・外川宇八
■ 場 所 ホテルサンルートプラザ新宿

プログラム

- ◆開会挨拶 (財)日本交通公社 会長 新倉武一
- ◆第 1 部 記念講演「だから世界の旅は面白い」
講師：旅行作家 山口由美氏
- ◆第 2 部 記念講演「旅する心」
講師：ドイツ文学者／エッセイスト 池内紀氏
- ◆閉会挨拶 (財)日本交通公社 旅の図書館 館長 渡邊サト江

第1部は、最近の若者が海外旅行に行かない理由を解き明かしながら、講師の海外旅行の経験を交えての話となった。特にナミビアの世界最古の砂漠といわれるナミブ砂漠、水木しげる氏の「ゲゲゲの鬼太郎」のモデルとなったのではといわれるパプアニューギニア・ラバウルのマスクフェスティバルに登場する「トゥブアン」、また言葉の通じない4人でのトルコ3週間の旅で最後には大いに打ち解けたことなどを、パワーポイントの美しい写真を交えて語られた。

第2部は、講師が旅を始めるきっかけとなった高校時代の本州一周旅行、大学時代の四国遍路から始まり、「浦」[沼]といった言葉から紡ぎ出される風景の話や夫婦旅行のあり方、2泊3日の旅の勧めなどが語られた。また、バス路線の減少、道路沿いの広告板の乱立など外国の旅行者を迎えるにあたっての寂しい観光地の現況等、情景が目に浮かんでくるような話を披露された。



参加者数 200 人